

1～4号機では燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や様々な取り組みをお知らせしています。

■ 本号の内容

2026年10月1日 発行

- みなさまのご質問におこたえします
- 放射線に関する出張授業を実施しました
- 発電所構内の空間線量
- 燃料の保管と冷却状況
- 麓山の火祭りに参加させていただきました
- 類似箇所の点検が終了しました
- みなさまの声をお聞かせください
- 発電所データBOX



心まで染まる
川内村の秋色♪

稲穂の黄金じゅうたん 撮影場所:川内村



福島第二原子力発電所の
ホームページはこちらから
ご覧いただけます
<https://www.tepco.co.jp/2f-np/index-j.html>



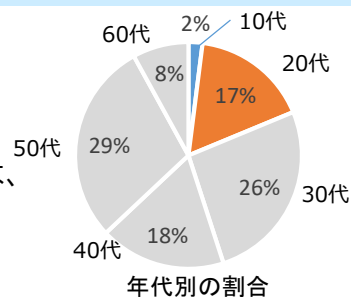
バックナンバーは
こちらからご覧いただけます
[https://www.tepco.co.jp/2f-np/
visual/magazine/](https://www.tepco.co.jp/2f-np/visual/magazine/)

みなさまのご質問におこたえします

Q. 福島第二原子力発電所で若手社員はどれくらい働いてるの？

A. 2026年8月1日時点で東京電力社員400名のうち、75名の若手社員（10代・20代）が働いています。

今年度も11名の新入社員が仲間に加わりました。若手社員の中には、地元出身者のほかに県外出身者もあり、活躍しています。



若手社員×県外出身者インタビュー

今回は、2024年度入社時に本広報紙の「新入社員インタビュー（若手社員×県外出身者）」にて紹介した社員に、入社3年目を迎えた現在の様子についてインタビューを行いました。

現在はどんな仕事をしていますか

2024年8月から保全・工事部機械グループに所属し、主に使用済燃料プール冷却に使用する熱交換器などの点検工事において、適切な品質を確保しながら、安全に作業が進められていることを確認・監理する業務（以下、工事監理）を担当しています。

事前にパートナー企業の方々と現場で危険箇所の有無を相互で確認し、また、作業中も現場の状況を確認しながら、安全かつ確実に作業を進められるよう心がけています。

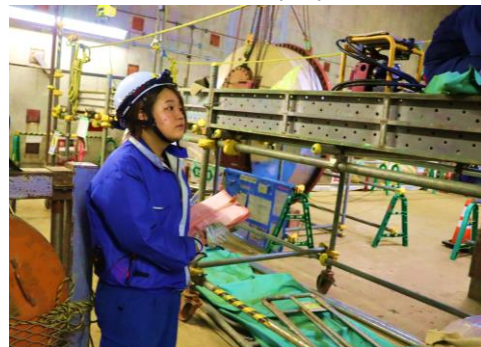


保全・工事部 機械グループ
さとう ももか
佐藤 百華（神奈川県横須賀市出身）

休日の過ごし方：ドライブや料理
得意料理：オムライス



新入社員インタビュー
の記事はこちらから
ご覧ください



入社前のイメージと実際に働いてみてどうでしたか

神奈川県出身のため「東京電力」は身近な存在でした。地元を離れて福島で働くことを決めた理由は、福島第二の「廃止措置」の仕組みや技術に興味をもったことがきっかけです。廃止措置は44年かけて進められますが、「現地・現物をみて学びたい」という探究心から、福島第二勤務を希望し、現在に至ります。

職場の雰囲気は、身近なメンバー同士はもちろん、他の組織とのコミュニケーションも活発で、対話の機会が多く、一体感のある職場だと感じています。仕事で行き詰まったときには、上司や先輩が親身に相談にのってくださり、一緒に課題を乗り越えられるようサポートをしてくれます。

これまでできなかったことが少しずつできるようになる「楽しさ」を感じながら、現在では工事監理業務を一人で担当できるまでになり、やりがいを感じています。

地元を離れ、福島の地で「廃止措置」に携わりながら、今ではすっかり福島での生活にも馴染み、地域の魅力も感じながら充実した日々を過ごしています。

これからの仕事に対する目標

新入社員インタビューの時に「学び続けることのできる社会人になりたい」と話しましたが、いま振り返っても、その気持ちは変わっていません。今も足を止めることなく学びの日々を送っています。これからも原点を忘れずに歩んでいきたいです。

－上司からエール－

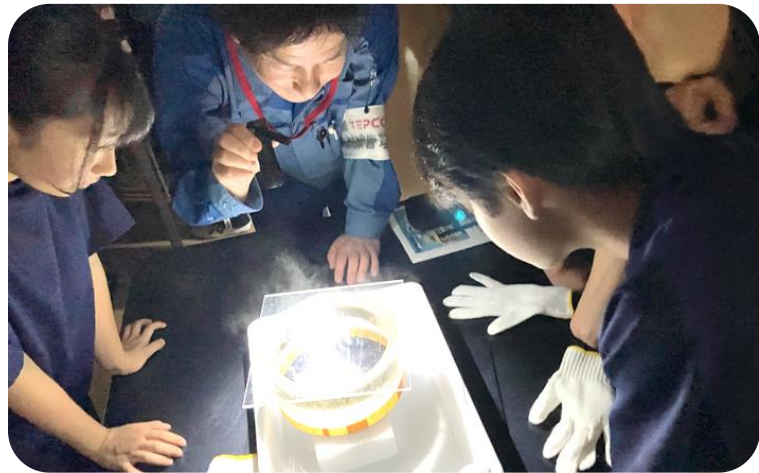
現状に満足することなく、一歩ずつ前進し続ける努力は、確実に成果となって表れています。これからも初心を大切にしながら、持ち前の探究心と行動力で、さらなる高みを目指してください。また、周囲への気配りを忘れず、誰に対しても誠実に向き合うその人間性は、多くの仲間から信頼を集めています。これからも自分らしく大きく羽ばたいてください。さらなる活躍を心から期待しています。（機械グループマネージャー 柴野 智洋）



放射線に関する出張授業を実施しました

8月28日、榑葉町立榑葉中学校より放射線教育のご依頼をいただき、出張授業を実施しました。

放射線に関する基礎的な説明のほか、霧箱を用いた放射線が飛ぶ瞬間の観察や身の回りの放射線量の測定体験行いました。観察や体験を楽しみながら、普段は目に見えない放射線の存在を身近に感じることで、放射線への理解を深めていただきました。



放射線の飛跡観察



放射線の説明



測定体験

生徒の皆さまの感想

宇宙、空気、食べ物、大地からも、放射線が出ていることを知って驚いた。

実験をして、とても面白かったし、楽しかった。

放射線は、悪いイメージが多くあったけど、レントゲンに使ったり、いろんな場面で使用していると知って、見方が変わった。

発電所構内の空間線量

(単位はマイクロシーベルト毎時)

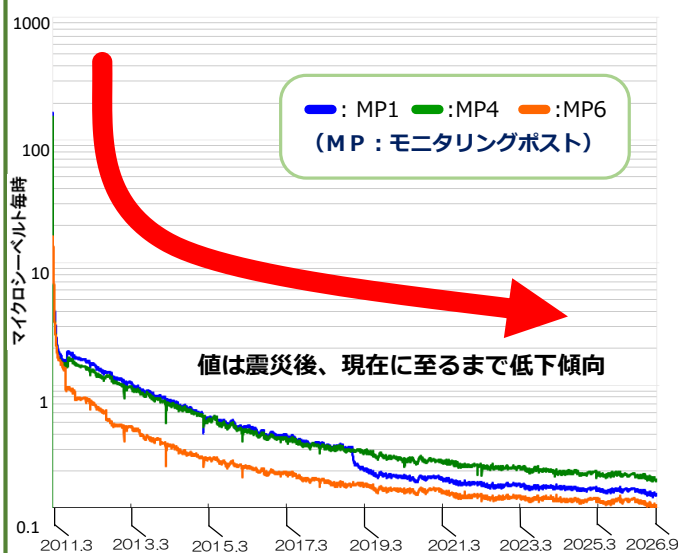
発電所構内のモニタリングポスト計測値 (MP1~7)

2026年9月16日 時点

0.07 [MP7] ~ **0.19** [MP3]

値は震災後、現在に至るまで低下傾向

震災から現在まで (2011年3月16日~2026年9月16日)



参考データ (単位はマイクロシーベルト毎時)

発電所周辺町村の空間線量

富岡町 (文化交流センター)	0.13	榑葉町 (役場)	0.07
広野町 (広野駅前広場)	0.09	川内村 (役場)	0.05

出典：福島県放射能測定マップ (市区町村別線量率一覧) より (2026年9月16日 時点)

世界の主要都市の空間線量

ロサンゼルス (アメリカ)	0.10	ソウル (韓国)	0.13
上海 (中国)	0.59	ロッテルダム (オランダ)	0.33

出典：Safecast (福島県放射能測定マップ) より

燃料の保管と冷却状況

燃料はすべて原子炉から取り出し、1~4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水は約30℃で安定的に冷却し、常に監視しています。

2,534体

1号機

2,482体

2号機

2,544体

3号機

2,516体

4号機

麓山の火祭りに参加させていただきました

8月15日、富岡町の麓山神社において、福島県重要無形民俗文化財「麓山の火祭り」が行われ、所長をはじめ4名が参加しました。たいまつ作りの準備や山頂を目指す担ぎ手として、約400年以上受け継がれている歴史や文化に触れる機会をいただき、地域の皆さまとの交流を深めることができました。



麓山神社



副所長
林



広報部長
白石



所長
都留



ユニット所長
遠藤

類似箇所の点検が終了しました

前月号で掲載しました「1号機使用済燃料プール冷却停止の原因と対策」について、ケーブル接続部の点検・調査を行ってまいりましたが、8月26日に完了し、安全上問題がないことを確認しました。

再発防止を徹底し、今後も使用済燃料プールの安定冷却を継続してまいります。



前月号はこちらからご覧ください



みなさまの声をお聞かせください

「福島第二原子力発電所からのお知らせ」をご覧ください、ありがとうございます。

今後の広報紙づくりのため、ご意見・ご要望など、みなさまの声を是非お聞かせください。



こちらのメールアドレスにてお待ちしております

fuku2kouhou@tepcoco.jp (受信専用)

※いただいた内容は、広報紙づくりなどの参考にすることを目的としており、それ以外の目的での使用はいたしません。



編集後記

7月より広報部に着任し、今月号からお知らせの作成に携わらせていただきました。あっという間に夏が過ぎ、朝夕には少しずつ秋の気配を感じるようになりましたね。今年の夏も双葉郡内では多くのイベントが開催され、地域のにぎわいと元気を感じる場面が数多く見られました。本紙が、地域のみなさまと発電所をつなぐ身近な情報源になれるよう、これからも地域の魅力や発電所の取り組みを分かりやすくお伝えしてまいります。



発電所データBOX

福島第二原子力発電所で働く人は2,485人※です。(2026年8月1日現在)

※1日あたりの入構者数は約700人

	東京電力HD	パートナー企業	合計
県内	339人	1,821人	2,160人(約87%)
県外	61人	264人	325人(約13%)
合計	400人	2,085人	2,485人(100%)

福島復興への責任を果たすため、燃料の安定冷却を継続し、安全第一で廃止措置を進めてまいります。

東京電力ホールディングス株式会社 公式アカウント



Facebook.com/OfficialTEPCO



公式エックス @OfficialTEPCO

編集発行責任者：

東京電力ホールディングス株式会社
福島第二原子力発電所 広報部 企画広報グループマネージャー
〒979-0695 福島県双葉郡楢葉町大字波倉字小浜作12
TEL 0240-25-1353 (受付時間(平日)午前9時～午後5時)
fuku2kouhou@tepcoco.jp (受信専用)